

# 《しあわせ村》への提言

四年に一度の村長選挙を終え、十一月定例議会も終了しました。村民の皆様には、村長選挙について、樋口の行動を含め、多々疑問の点もあろうと思っております。デマや造りごとがあまりにも横行しましたので、ここで初めて事実を説明いたします。村長選挙に対する樋口の考えをお伝えします。(左は三者会談で樋口が提示したイラスト)

## 村長とは何か？

ここに、六 名を乗せた大型バスがあります。行き先は《しあわせ村》でバスの運転手は、もちろん村長です。そして、旅行計画や予算、バスの燃料やタイヤの空気圧などのチェックをするのが村会議員であり、バスのエンジンが村の役場職員だとします。

これらの役割が十分に機能して、六 名の乗客(村民)は《しあわせ村》に向け出発することになります。

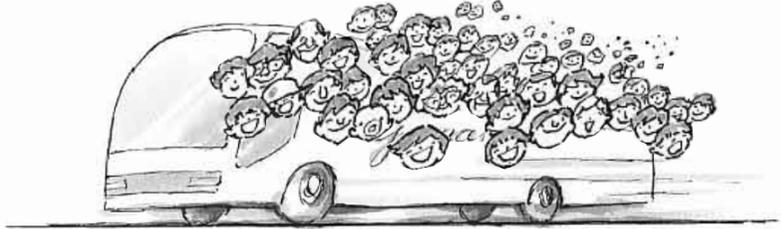
したがって、運転手である村長には、冷静・的確な判断力、高度な技術力、経験、人柄などが要求され、さらにアクセルやブレーキなどの運転操作にうまく反応する優秀なエンジン(職員)が必要とされます。

## 村長選挙で何を

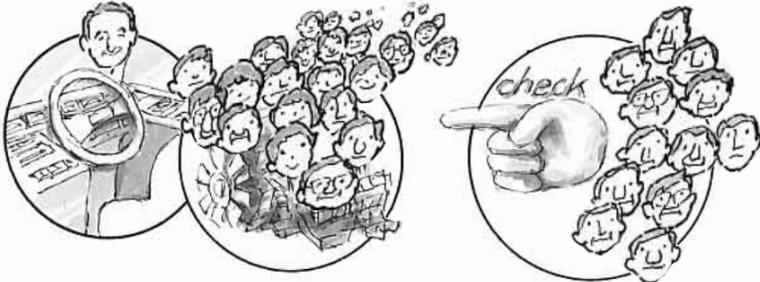
### 選ぶのか？

今回の村長選挙で、政策チーフが双方から出されたこと、画期的なことだと思えます。しかし、とかく選挙は、政策(選)としますが、政策とは旅行パンフレットに過ぎず、重要なことは、目的地に向けて走るバスの運

《しあわせ村》づくりへ走る山中湖村号 乗客は6,000人の村民



運転席に村長 エンジン役は役場職員の役割 チェック機能は議会と議員に



しようか？ しがらみ、親戚、利害、情報不足などで、判断力は鈍っていませんか？

「本当は、がいのだが、は親戚だから」とか、仕事をもちがっているから」とか、友人に頼まれたから」などが判断の基準になり、四年前の村長選では苦い経験をしました。

有権者に正しい判断力があり、その判断に従った行動(投票)ができたとき、はじめて《しあわせ村》への旅行を、安心して楽しむことができるのです。

## 今までの選挙の弊害

選挙をするたびに、派閥や利害、馴れ合いなどの弊害から、「勝ち組」「負け組」がつまれば、人事面や仕事の配分などに不正や不合理な点が見受けられました。

優秀な人材があっても、選挙の支持派が違つてから、を理由に、登用されていません。ここに山中湖村が活力を失っている原因の一つがあり、村民同士の感情が行き違い、それが後を引く暮らしの一面があると思えます。

## どのように解決したらいいの

一年に一度といわれる経済大混迷の時代、村民経済も村の財政も危機的状況に直面しています。このような大事な時に、「あつち派」「こつち派」で対立している場合ではありません。

六 名の乗客が共に楽しく旅行するには、いがみ合いをやめ、団結して同じ方向を目指して一致協力することが必要だと痛感しました。

## 三者会談の事実

樋口は、立候補予定者の羽田三氏(議員)と高村忠久氏(村長)に対し、上記の

考えを伝え、「これから四年間の村民の暮らしと村政のために、一致団結(大同団結)していただけないか」という提案を申し入れました。(11月25日の告示前の23日(日)に午後三時から二時間、場所は旭日丘の二店舗内)

羽田三氏には、村会議員を継続していただき、政策チーフにも記載してあったような議会改革に専心していただきたい。

羽田三氏が大英断をした場合、高村忠久氏は、自動的に村長に当選するのだから、役場改革を進め、副村長や職員などに対し選挙人事や派閥人事といわれるような弊害を廃し、村民の納得できる人材を登用した村政を実行して欲しい。

村長室がサロン化していると言われる実態を改め、職員の本来的職務意欲を高めて欲しい。

これからは、共に話し合つて進めていくことができれば、樋口も政策提言など、大いに協力していきたい。

## 羽田三氏からの申入れ

村民は、村政の改革を求めている。旧来の派閥やしがらみの政治を刷新すべき。自分では反対すべきと思うような場面でも、議会をまとめる立場として村長に協力してきたはずだ、「このことで筋が通らず、樋口君と反目した」とも付け加えた。

副村長候補にすでに四人の名前が噂されているが、そのようなことは如何かと思つた。

課長職をはじめ全職員が、住民の手本となるような姿勢や態度に改め、公務員としての質を高める指導力を発揮すべきだ。

## 高村忠久氏からの意見

一期目四年のうち三年間は前村長からの残務整理、引継ぎの意味と思われ、(で忙殺された。これからは自分の政治をしたい)。

今までと違い、派閥解消の政治を目指していきたい。

役場の改革については、大いに進めていきたい。

## 三者会談の結果

一時間でしたが、議場で互いの印象とは全く異なり、紳士的で明快な意見交換ができ、「新しい時代が始まる」という強い予感が感じられました。

選挙中ということもあり、三者会談実現までには極めて慎重に進めました。二人には、樋口の提案に快く応じていただき、忌憚のない話し合いができたことに心から感謝しています。

## 今後の期待

以上が、真正正銘の事実です。したがって、密室での政治取引や、無投票工作などは一切ありませんし、絶対にあつてはならないことです。

まして、私樋口に二六〇票ある。それで忠久氏を支持する」との取り沙汰は、数値の出自からして、全く根拠のない造り話です。

これらは、選挙を利用した思惑(選挙=銭争)がはずれ、逆恨みして樋口を落とし、いれようとする悪質な行為にほかなりません。

村民の皆様、樋口は五年間の積み重ねを水の泡にするようなことは、断じて行なっておりませんので、ご安心ください。むしろ、これから新しい村政が始まるのだという期待を持っていただきたいと思えます。そのために、樋口は二層努力をして参ります。

平成二十年の二年間、村民の皆様方の応援に支えられ、議員活動を勧めることができました。どうか来年もご指導ご支援下さいますようお願い申し上げます。